

わたくしたち那覇市民は、戦争の惨禍を決して忘れることなく、愚かな戦争を再び繰り返してはならないと深く決意するものであります。

那覇市民の恒久平和への強い決意をアジアや世界の人々に伝えるため、那覇市平和宣言を行い、ここに恒久平和のモニュメント「なぐやけ」を建立いたしました。

「なぐやけ」は「穏やか」「和やか」という沖縄の古語で、いつまでも平和でありますようにとの祈りが込められています。

(「なぐやけ」の碑「碑文より一部抜粋」)



なぐやけの碑

戦後69年 那覇ぬ 戦跡巡てい 命失たる魂 慰みゆん

埋もれた戦場の跡を訪ねて

沖縄戦の激戦地

現在、ショッピングセンターや高層ビルが建ち並ぶ新都心地区。周辺の真嘉比地区でも開発が進み、この一帯は新たな市街地として発展を続けています。新都心おもろまちのTギャラリア(旧DFSギャラリア)の正面に、那覇市水道局の管理する安里配水池があります。白い水タンクが目を引きその小高い丘は、「慶良間チージ」(日本軍名「安里52高地」、米軍名「シュガーローフ」と呼ばれ、かつて沖縄戦の激戦地でした。



1945年4月1日、沖縄本島中部の嘉手納・読谷の海岸に上陸した米軍は、4月3日には東海岸の中城村に達し、本島を南北に分断、一方は、首里城地下に建設された日本軍第32軍司令部壕を目指し南下しました。日本軍は、首里の司令部を守るため、宜野湾の嘉数、浦添の前田高地など、首里城北側の防御と、

現在の姿
慶良間チージ(シュガーローフ)
 丘は大きく削られ、頂上部には水道局の管理する配水タンクがあります。タンクの周囲には遊歩道がつけられ、激戦の歴史を記す碑文が設置されています。



大道森(ハーフムーン)
 おもろまち駅から東側で、真嘉比小学校南側にあたります。今年3月真嘉比南公園内に戦争遺跡碑が完成、弾痕の残る石壁や発掘された銃剣、銃弾等も展示されています。



主な紙面

- 特集 那覇ぬ戦跡巡てい
- ヘルストリビューション 命失たる魂 慰みゆん
- ほけんインフォメーション
- みんなで作ろう家庭の排水
- 那覇の景観賞公募
- ニューズ・ダイジェスト
- 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特別給付金
- 那覇市情報公開条例改正/国保赤字対策
- 耐震診断/防災・気象情報メールの登録
- 那覇市ふるさとづくり寄付金制度
- 情報バック
- 協働さん/博物館トビックス
- うちなーくちやあじくーたー

慰霊の日企画

市立図書館
 各図書館では、慰霊の日の企画として、沖縄戦関連の資料(図書・写真集)や映像、パネル展示などの特設スペースを設けるほか、繁多川図書館では「慰霊の日おはなし会」を開催します。この機会にぜひ、ご来館ください。

図書館	企画内容	開催日
中央	図書	6/1(日)~6/22(日)
牧志駅前ほしぞら	図書、パネル	6/10(火)~6/24(火)
小祿南	図書、パネル	6/19(木)~6/27(金)
首里	図書	6/12(木)~6/25(水)
若狭	図書	6/19(木)~6/29(日)
石嶺	図書、映像(DVD)	5/22(木)~6/27(金)
繁多川	図書 おはなし会	6/10(火)~6/22(日) 6/22(日)11:00~11:40

那覇市歴史博物館
 「戦時体制下の沖縄~沖縄戦への道~」
 詳しくは12面へ

西原の運玉森や弁が嶽など東側の防御を固め、さらに、慶良間チージと、その南側にある丘(米軍名「ホースシューア」、そして東側に位置する大道森(米軍名「ハーフムーン」)を首里の西側の防衛ラインとしました。米軍側にとっては、これらの場所を制圧することが首里制圧のカギを握ることから、日米両軍の激しい戦闘が繰り広げられました。

米軍は5月10日、日本軍が米軍の進攻を遅らせるために爆破した安謝橋に架橋して、安謝川を渡り、天久台地に進攻しました。安里・真嘉比で陣を敷いた日本軍は、圧倒的な火力を誇る米軍に対し、慶良間チージなど3つの丘を地下で連結させ、互いに連携し補完しあう巧みな防御陣地を構築、米海兵隊を迎撃しました。前線に位置する慶良間チージでは、一日に4度も頂上の争奪戦が繰り返されたといわれています。



右奥の丘が沖縄戦で最も血なまぐさい戦いが繰り広げられた慶良間チージ。手前には日本軍の47ミリ砲がある。(提供:沖縄県公文書館)



散乱した瓦礫、器具類や兵士たちを、慶良間チージから見下ろす。後方で、上陸用装軌車から投げ込まれた手榴弾が炸裂している。(提供:沖縄県公文書館)

恒久平和を祈る
 若狭海浜公園内にある「なぐやけの碑」(最上の写真)は、1996年に、終戦50周年を記念して「恒久平和のモニュメント」として建立されました。このモニュメントには、悲惨な戦争体験から、戦争のおろかさ、生命の大切さを深く実感し、世の中がいつまでも平和でありますようにとの思いが込められています。

戦後69年を迎え、戦争の記憶の風化が懸念される中、わたしたちは、今日の平和と繁栄がこれら戦没者の尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れてはなりません。

市内には、ほかにも、犠牲者を祀る「中健児の塔」や「小桜の塔」、「白梅の乙女像」などの記念碑や、弾痕の残る塀や石垣、第32防空壕跡など数多くの戦跡が残されています。これらの戦跡が沖繩戦の歴史を後世に伝え、「平和」を考えるきっかけになることを期待します。



小桜の塔